【板橋キャンパス 造形表現学科・1限】後期 見学可能授業一覧（2026年11月9日（月）～11月21日（土））

・授業の見学は高校生および受験生のみの参加となります。保護者の方は教室内に入れません。
・複数の授業を自由に見学できます（途中入退場自由）。移動時は授業の妨げにならないよう静かにご移動をお願いいたします。
・○限と○限の連続授業もありますが、連続して授業を受けていただく必要はありません。

時限/曜日	月	火	水	木	金	土
1限 （9:00-10:40） ※9:30からの参加になります。		62・基礎平面４期 63・育ちのための表現F	64・表現とデザインB2(情報)4期 65・住環境デザインII	66・織物Ⅱ 67・染色造形B	68・素材と表現４期	69・織物造形B
2限 （10:55-12:35）	70・71・72・73・マテリアル実習 74・表現とデザインA2 （グラフィック） 75・表現とデザインB2 （情報デザイン）	76・基礎平面４期 77・育ちのための表現F	78・表現とデザインB2(情報)4期 79・住環境デザインII	80・織物Ⅱ 81・染色造形B	82・素材と表現４期	83・織物造形B
3限 （13:25-15:05）	84・85・86・87・マテリアル実習 88・表現とデザインA2 （グラフィック） 89・表現とデザインB2 （情報デザイン）	90・表現とデザイン（住環境） 91・表現とデザイン（インテリア） 97・芸術文化論	92・グラフィックデザインB 93・陶芸Ⅱ 94・金工・ジュエリーⅡ4期		95・基礎造形３期 96・表現とデザイン（住環境）	
4限 （15:20-17:00）	98・99・100・101・マテリアル実習 102・情報メディアデザイン	103・表現とデザイン（住環境） 104・表現とデザイン（インテリア）	105・グラフィックデザインB 106・陶芸Ⅱ 107・金工・ジュエリーⅡ4期		108・基礎造形３期 109・表現とデザイン（住環境）	

学科名	授業番号	日程	時限	授業名	教員	授業の概要	備考
造形表現学科	62	11/10（火） 11/17（火）	1限（9:00-10:40） ※9:30からの参加になります。	基礎平面４期 ※2限との連続授業	山藤　仁	基礎平面（第2期・第4期 開講） 授業の前半は「観察」を重視し、実際に自分の目で見たものを画面上に蓄積・表現することに取り組む。後半では、絵具やインクなどの基本的な描画材料を用い、濃度の調整や素材の扱い方を工夫することで、表現の幅と可能性を探求する。特に、描画材と支持体（紙やイラストボードなど）が触れ合うことで生まれる物理的な現象や変化を体験し、その特性をコントロールする力を養う。全14回の授業を通じて、観察力と画材への理解を深め、オリジナリティのある作品の完成を目指す。講評時のプレゼンテーションでは、制作プロセスを振り返りながら、自分が何を感じ、どう表現したのかを言語化する。他者の作品や多くの表現にも触れることで、豊かな感性と分析的な思考力を身につける。	定員：５名
	63	11/10（火） 11/17（火）		育ちのための表現F ※2限との連続授業	岡田　京子	これまで「育ちのための表現」で学んだことをもとに、乳幼児、小学生、中学生及び高校生対象の造形的なワークショップを計画、実践し、子供に対する理解を深める。これらを通して、子供に関する知識と理解を備えた造形教育者として、人の育ちを今後どのようにサポートしていけるかを考察し、表現と社会との関わりについて探究する授業である。	定員：５名
	64	11/11（水） 11/18（水）		表現とデザインB2(情報)4期 ※2限との連続授業	宮本　真帆	情報(デジタル)メディア系デザインの表現の基礎。この分野の扱う領域は幅広く、WEBサイトやスマートフォンアプリなどのコンテンツメディアから体験型の情報装置なども含まれ、作品を構成する要素もユーザインターフェイス、インタラクション、CG画像、グラフィックや映像系の素材、LEDやセンサーなどの電子素材と多様である。 本科目では、①3DCGの基礎と②ロゴ・シンボルマークのモーションデザインの制作実習を通し、この分野の基礎を広く学び視野を広める。基礎的内容には技術面に加え発想や思考方法の基礎も含まれる。 この科目は全14回の授業を２つに分けて行い、それぞれ担当教員と内容が異なる。（3DCG基礎：前田，モーションデザイン：宮本） それぞれの内容と進め方の詳細は各担当者がそれぞれの初回授業で説明する。 上記の授業計画では、便宜上1回～7回と8回～14回で分けてあるが、実際の実施順序はクラスによって異なる。	定員：５名
	65	11/11（水） 11/18（水）		住環境デザインII ※2限との連続授業	手嶋　尚人	住環境デザインⅡでは、表現とデザイン（住環境）、住環境デザインIで習得した住環境や住空間の知識とその表現の方法をさらに発展させ、より広い範囲で住環境や住空間がデザインを行う。	定員：５名
	66	11/12（木） 11/19（木）		織物Ⅱ ※2限の連続授業	大木　敦子	繊維造形は平面表現、立体表現、空間表現と様々な表現方法に展開することができる。 前期織物Ⅰで習得した技法の他、ミシンワークやオリジナルのテクニックを自ら探究することで表現の幅を広げ、自己のイメージの具現化へつなげる。 ＜テクスチャー研究＞自然界のテクスチャーからヒントを得て、織・フェルト・ミシンワークまたはオリジナルテクニックでの素材と技法の研究を行う。 ＜自由制作＞テクスチャー研究を通して得た発見を繊維造形の中で自己の作品へ展開する。	定員：５名
	67	11/12（木） 11/19（木）		染色造形B ※2限の連続授業	早瀬　郁恵	繊維素材を用いた造形表現は、「染める」「織る」「縫う」「編む」「組む」等の技法を中心に、多様な表現で制作され、それらはテキスタイルアートといわれている。 授業では、捺染の手法を用いて様々なテキスタイル加工法について学び、布の特性、加工による布の質感の変化や視覚的な効果について理解する。さらにこれまで学んできた他の技法と組み合わせてテキスタイルアートとしての新たな表現を試みる。	定員：５名
	68	11/13（金） 11/20（金）		素材と表現４期 ※2限の連続授業	押元　信幸 早瀬　郁恵	金属造形の基礎として、素材の特性を生かした自分の表現について考察する。授業は自然物の観察から「抽象フォルム」を導き出し、金属の特質を踏まえた加工技法を習得しながら立体表現の制作所作を身につけていく。	定員：５名
	69	11/14（土） 11/21（土）		織物造形B ※2限の連続授業	大木　敦子	繊維造形の可能性はテクスチャー・フォルム・色彩に加え、空間を意識することで更に広がりをもつ。 これまで学んできた織、フェルトやその他の技法を用いて制作に取り組み、テキスタイルアートとして新たな造形表現を目指す。 サンプルから得た表現をヒントに作品へ展開し、制作する。 作品は平面作品、立体作品、吊り作品、いずれかとし、展示場所・展示方法をふまえて計画する。	定員：５名